

GREEN UNIFORMとは

About project

地球にやさしい
グリーンなユニフォームを
綺麗なまま長く
クリーンに使い続ける

完全持続型ユニフォーム

GREEN UNIFORM

GREEN UNIFORMは、色落ちに強く、美しさを長く保てるユニフォームです。

環境負荷を最小限に抑えた製法・素材を採用し、半永久的に循環し続ける仕組みを備えています。

単なるユニフォームではなく、企業や着る人すべてに「誇り」をもたらすプロジェクトです。

GREEN UNIFORMの想いとビジョン⁷

Thought & Vision

世界第2位の環境汚染産業として知られるアパレル産業。

日常生活の中で個人が着る衣服では、ペットボトル由来のポリエステルやオーガニックコットンに代表されるようなサステナブルな素材から生まれた商品、繰り返し着る“リユース”が浸透し、今や「ファッションロス」という言葉は一般的なものになりました。

一方で、工場や飲食店、建設現場など仕事場で着るユニフォームは、なんと回収率1%未満。

使えなくなれば捨てられるのが当たり前の状況です。

この状況をなんとか打破できないかと、三栄コーポレーションが立ち上げた新サービス。それが「GREEN UNIFORM」です。

「GREEN UNIFORM」で使う生地は、従来より水や化学薬品を大幅に削減した染色技術を用いており、環境負荷を最小限に。

リサイクルを前提とした単一素材のデザインで設計し、ユニフォームの回収・リサイクルまでをワンストップで行います。

さらに、何度洗っても、日光に晒されても、薬剤を使っても色落ちしにくい耐久性で、長く快適に使っていただくための機能性も欠かしません。

環境への負荷を限りなく減らしたユニフォームが半永久的に循環し続け、綺麗なまま長く使い続けられる。

それが完全持続型ユニフォーム「GREEN UNIFORM」の唯一無二の価値。

そしてゆくゆくは、「ユニフォームロス・ゼロ」の実現につなげます。

アパレル産業を取り巻く社会背景¹

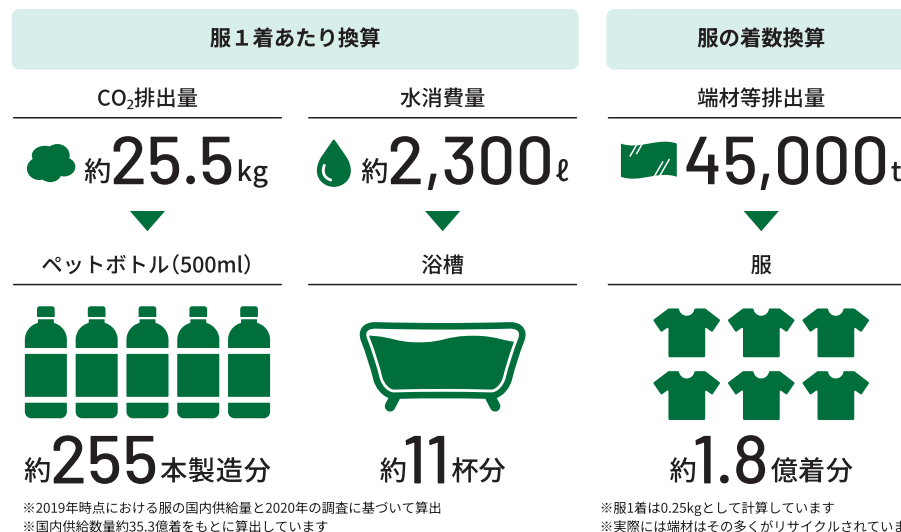
Social background

Point 01

世界第2位の環境汚染産業と言われるアパレル産業

アパレル産業は、原材料の調達から生地・衣服の製造過程、輸送から販売、そして廃棄までの一連の流れの中で環境に影響を与えており、その影響の大きさから、国連貿易開発会議(UNCTAD)からは“**世界で第2位の環境汚染産業**”とされています^{*}。環境省によると、原材料調達から製造段階までに排出される環境負荷の総量を服1着あたりに換算すると、CO₂排出量が約25.5kg(ペットボトル約255本分)、水消費量が約2,300ℓ(浴槽約11杯分)とされており、**サプライチェーン全体における環境負荷の低減が喫緊の課題**です。

※出典 国際連合広報センター「国連、ファッションの流行を追うことのコストを「見える化」する活動を開始」



※出典

環境省「令和2年度ファッションと環境に関する調査業務」報告書(P.14~)

Point 02

重点テーマとして掲げられている“衣類・繊維の循環”

環境省が2024年に作成した「衣類のマテリアルフロー」によると、国内における衣類の新規供給量は計82万トン。そのうち約7割に相当する計56万トンが、事業所や家庭から手放されたあと、焼却・埋立などの処分をされていると推計しています^{*}。

こうした状況も踏まえて、2024年8月に閣議決定された「第五次循環型社会形成推進基本計画」では、計画の柱として家庭から捨てられる衣類の量を2030年までに25%削減することが掲げられました。**繊維製品の回収方法の開発や、設計・製造時から環境に配慮した設計を行うこと**等が方針として明記されるなど、“**循環を実現するための取り組みが着目**”されています。

※出典 環境省「令和6年度循環型ファッションの推進方策に関する調査業務」報告書概要版(マテリアルフロー)(https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/goodpractice/materialflow_reiwa6.pdf)

Point 03

家庭で消費される衣類は、リユースやリサイクルの取り組みが浸透しつつある状況

アパレル産業の中でも、**家庭で消費される衣類については、近年リユースやリサイクルの取り組みが自治体・企業・生活者ともに浸透してきている**と言えます。街中の商業施設や店頭に衣類回収のボックスを設置する事例や、生活者同士で着なくなった衣類を販売し合うフリマアプリなどCtoCのリユースも、少しずつ当たり前になりつつあります。

一方で、「衣類のマテリアルフロー」によると、事業者には供給される約4万トンの衣類のうち、3万トンが産業廃棄物、1万トンが可燃・不燃ごみに行きついているとされており、**事業者が消費する衣類についてはリユースやリサイクルの推進が遅れている**ことが表れています。

※出典 環境省ホームページ「SUSTAINABLE FASHION」(https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/)

ユニフォーム業界の状況と課題

Situation & Problem

国内市場規模が約5,000億円の ユニフォーム業界でも、 サステナビリティへの取り組みが増加

アパレル産業の中でも主に事業者が消費している“ユニフォーム”に着目すると、国内のユニフォーム市場は約5,000億円規模で堅調に推移しており、食品以外の製造工場や建設業等のワーキングユニフォーム、病院・介護施設や飲食業などのサービスユニフォーム、学校の制服等が市場を構成しています。

ユニフォーム業界においても、アップサイクル素材や環境に配慮した素材を用いた製品の展開や、使用済みのユニフォームを回収して別の製品やエネルギー等にアップサイクルするといった事例が出ており、アパレル産業全体の傾向と同じくサステナビリティへの取り組みが増加していること、またユニフォームを使用する企業側のサステナビリティへの関心が高まっていることが窺えます。

※出典 株式会社矢野研究所プレスリリース「ユニフォーム市場に関する調査を実施
(2024年)」(2024年4月25日発表)

当社が着目した ユニフォーム業界の 課題とニーズ

三栄コーポレーションはユニフォーム業界では後発ですが、ユニフォーム業界の課題と、求められているニーズに着目しました。

1 使用済みユニフォームの 回収率(1%以下)の低さ

一般社団法人日本ユニフォーム協議会の2023年のデータによると、企業が使用したユニフォームの回収率は、全体の約0.6～0.7%と1%にも満たない状況です。家庭で消費される衣類のリユースやリサイクルが浸透しつつあるのに対して、なかなか取り組みが進んでいない現状と言えます。その一方で、形状や素材が統一された製品が、一定量まとめて回収できるため、リサイクルに適した分野であるとも考えられています。

※出典 一般社団法人日本ユニフォーム協議会
「企業ユニフォームリサイクルにおける可能性」

2 ユニフォームに対する 「長持ちさせたい」というニーズ

当社はこれまで、ユニフォームの営業現場において、「毎日着用するものだからこそ、ストレッチ性や速乾性といった機能性、汚れが付きにくく落としやすい点が重要である」というお声を多くいただきました。一方で、こうした要素に加え、「タフさ(耐久性)」を重視する声も多く伺うようになりました。特に、強い洗剤や消毒液を日常的に使用する飲食業・医療機関、また屋外での勤務が多い警備員やゴルフ関連など屋外現場を中心に、薬品や日光にさらされても色落ちしにくい、高い耐久性を備えた“長持ちするユニフォーム”が求められていると感じています。

三栄コーポレーションの事業とGREEN UNIFORMを始動した背景¹

Business & Background

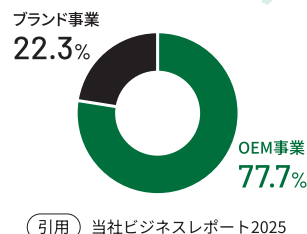
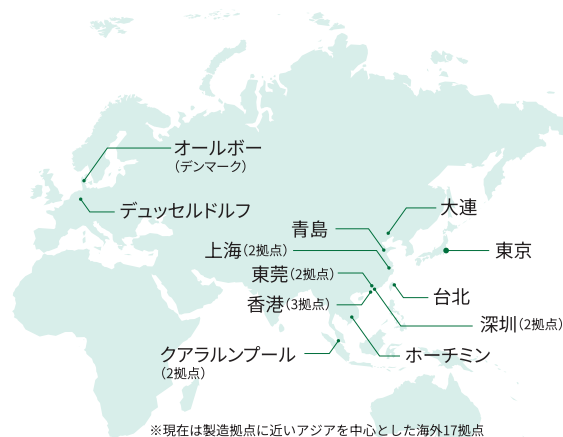
Feature 01

生活用品の専門商社として、 OEM事業とブランド事業を手掛ける

当社三栄コーポレーションは、2026年に創業80周年を迎える生活用品の専門商社です。相手先ブランド製品の製造・供給を行うOEM事業が売上高の約8割を占めており、海外拠点網を活用したサプライチェーンのマネジメントを行っています。また、OEM事業のノウハウを集約して作り上げた自社ブランド展開や、世界からセレクトした海外ブランド商品を扱うブランド事業も手掛けています。

長年のOEM実績で培ってきた素材調達やネットワークに強み

当社が長年培ったノウハウと、海外20拠点のネットワークを活かし、商品の企画・開発から工場の手配、生産管理、流通に至るまで、ワンストップでご提供できることが強みです。そのため、外部デザイナーや原料メーカーとのリレーションが豊富で、最先端の繊維技術やサステナビリティのトレンド情報を常に収集することができます。



Feature 02

企業用ユニフォームの実績も多数

大手飲食店やカフェ、スーパーマーケットの従業員向け等、現場の方々が着用する企業ユニフォームも多数の実績を持っており、顧客の要望に応じた価格と品質で幅広い製品を生産しております。また、企業用ユニフォームを専門的に取り扱うデザイナーを活用し、企業イメージを向上させるデザインと、着用シーンでの着心地の良さを追求した製品をご提供します。

Feature 03

三栄コーポレーションの強みを活かして サステナブル活動を主導・支援する 「OUR EARTH PROJECT」



当社では、事業を通して蓄積されているサステナビリティに関する知見やネットワーク等の強みを活かし、社会のサステナブル活動を主導・支援する「OUR EARTH PROJECT」を2019年にスタートさせました。世界のサステナブルなブランドを国内に輸入・販売する「BRAND」、ユニフォーム制作や製品のOEMで企業のサステナブル活動を支援する「PRODUCE」、サステナブル活動を広めるイベント・ワークショップの開催といった「ACTION」の3つの柱があります。

「GREEN UNIFORM」は「OUR EARTH PROJECT」で取り扱うサステナブル素材を最も効果的にご提供できる方法を検討する中で生まれました。使い終わったユニフォームのリサイクルが進んでいないという課題に対して、当社が国内で独占販売を行う無水染色素材のe.dye®、JEPLAN社が製造し当社でも多数の取り扱い実績があるBRING Material™という2つの素材を組み合わせ、ユニフォームの新しいかたちを作りたいと考えています。

OUR EARTH PROJECTで扱うサステナブル素材の一例



e.dye®は生地染色の工程で使用する水を従来より大幅に削減して作られた原着素材。色落ちにくく、長く使えるという機能性を併せ持っているためユニフォームに最適で、当社が日本の代理店として独占販売を行っています。



BRING Material™は、工場から発生する繊維くずやBRING™の活動によって消費者から回収した服などの繊維由来原料を100%*使用し、独自のケミカルリサイクル技術によって石油由来原料と同等の品質にまで再生、製造された再生ポリエステル樹脂です。石油を使用する一般的なポリエステル生地と比較して環境負荷が低く、世界で注目されています。*(95%:繊維くず5%:回収した服)

参考資料 OUR EARTH PROJECT (<https://ourearthproject.jp/>)

GREEN UNIFORMの“完全持続型”スキーム

Scheme

GREEN UNIFORMの“完全持続型”という言葉には、

薬品を使った洗濯や日焼けにも耐えて綺麗なまま長く使い続けられる

環境への負荷を抑えた持続可能性

結果として企業にも社会にもWin-Winのシステムが続く

という3つの意味を含んでいます。

03 【製造】 安全性と快適性の追求

企業ユニフォーム専門のデザイナー集団を起用し、現場で働く人の動作に合わせた製品設計をすることで、着用者が安全かつ快適に働けるユニフォームを提供

【環境負荷削減量の可視化】

各認証機関、第三者機関との連携により、サステナビリティへの貢献度を可視化

02 【デザイン設計】 リサイクル前提の設計

商品の設計段階からリサイクルを見据え、生地や副資材など、商品を構成するすべてのパーツをポリエステル単一素材(=モノマテリアル)で構成

01 【材料】 環境配慮の素材

原着素材「e.dye®」の製法である無水染色(原着)技術と、繊維由来のリサイクル素材「BRING Material™」を組み合わせた独自の素材を使い環境負担を最大限軽減

04 【着用】 ロングライフなタフ素材

e.dye®の高い堅牢性により、色落ちがなくきれいなまま長く着用していただける。色褪せや汚れによる廃棄物を削減できるだけでなく、いつもきれいなユニフォームはブランドイメージの向上にも寄与

05 【リサイクル】 ユニフォームからユニフォームへ

株式会社JEPLANとのパートナーシップにより、使用済みとなったユニフォームを適正に回収・処理するとともに、地球の資源にリサイクルし、再び市場に循環させることを目指す

GREEN UNIFORM

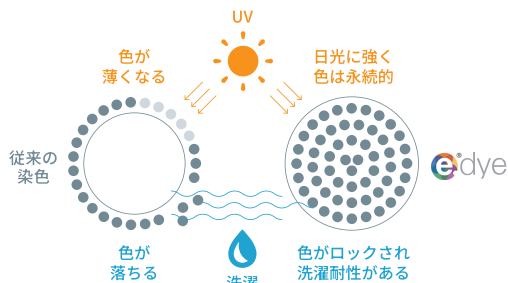
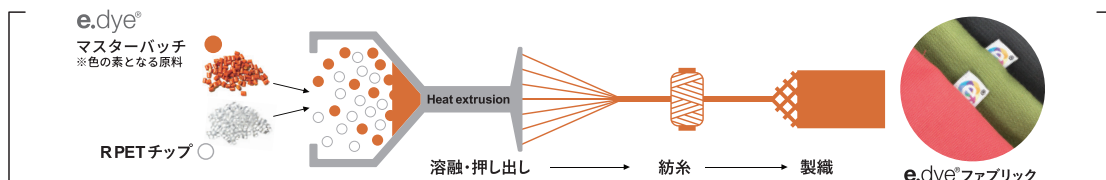
GREEN UNIFORMの独自性 | “繊維由来”の“無水染色”素材

Uniqueness

GREEN UNIFORMの“完全持続型”スキームで、最も重要な役割を持っているのが、当社が日本での独占販売を行っている原着素材「e.dye®」の製法である無水染色（原着）技術と、株式会社JEPLANが製造する繊維由来のリサイクルポリエステル「BRING Material™」を組み合わせた、**ユニフォーム業界やアパレル業界でも先進的な“繊維由来の無水染色（原着）技術素材”**です。

Feature 01 色落ちせず長く使えるロングライフなタフ素材

e.dye®の製法である無水染色（原着）技術は、紡績後、染液に漬けて染色を行う従来の染色方法と異なり、紡績前のペレット原料に直接着色をする、水を使わない染色方法です。



【糸の断面図】

ペレット原料に直接着色をするため、繰り返しの洗濯や汗、日光による色落ちや変色に強い“堅牢性”が高いことが最大の強み。従来よりも長く使用でき、廃棄物の低減やランニングコストの削減につながります。原着技術は紡糸製造工程が大掛かりとなり、どうしても製造ロットが大きくなる背景から、**衣料品の分野でこれまで広く普及するには至っていません**。e.dye社は自社設備環境を改良することで、従来と比較して小ロットでの対応を可能にしています。

【参考】e.dye®の色落ちテスト

薬品の付着テスト



飲食店や医療現場で通常500倍～1,000倍に希釈して使用する次亜塩素酸ナトリウムの原液を生地に付着させてもe.dye®はほとんど色落ちせず元の色をキープできます。

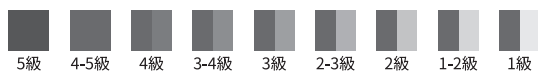
※次亜塩素酸ナトリウムの原液付着テスト（有効塩素5.0%以上を含む）

紫外線の照射テスト

※スーパーキセノンウェザーメーター
SX75使用 放射照度：180W/m@300-400nm

照射時間	素材名	一般的なポリエステル	e.dye®
10時間後		4級-5級	4級-5級
20時間後		3級-4級	4級-5級
30時間後		2級-3級	4級-5級

【変退色用グレースケール】



堅牢性が高い ← → 堅牢性が低い

紫外線に長時間晒されても、退色が目立つ一般的なポリエステルに比べ、e.dye®は非常に色落ちしにくいことがわかります。

Feature 02 環境負荷削減に大きく貢献する独自素材

GREEN UNIFORMの立ち上げにあたり、当社と株式会社JEPLANは共同で独自の素材開発に着手しました。



BRING
Material™

JEPLAN社が製造する「BRING Material™」は、工場から発生する繊維くずや、回収した使用済みの服などの繊維由来原料を100%使用し、ケミカルリサイクル技術によって石油由来原料と同等の品質にまで再生、製造されたリサイクルポリエステルです*。

※ BRING Material HP: <https://bringmaterial.jp/>

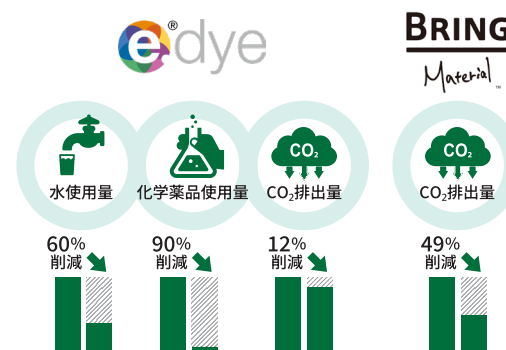
当社はJEPLAN社と製品化のパートナーとして、「BRING Material™」のポリエステル樹脂をペレット原料とし、e.dye®の無水染色を施した独自素材を開発。“ケミカルリサイクルによる繊維由来ポリエステル”と“無水染色技術”と“無水染色技術”の掛け合わせは、**ユニフォーム業界やアパレル業界でも先進的な取り組みと言えます**。

【参考】e.dye®×BRING Material™の環境負荷低減

e.dye®は大量の水を使う染色工程がないため、従来の生地と比較して、水・化学薬品の使用量とCO₂の排出量を格段に抑えることができます。

加えて、「BRING Material™」は石油由来のポリエステルと比較してCO₂の排出量が約半分*。2つのサステナブル素材を掛け合わせることで、化学薬品を含んだ工場排水の大幅な削減と、石油資源の使用削減に貢献します。

※ JEPLAN HP: <https://www.jeplan.co.jp/sustainability/#apparel>



GREEN UNIFORMの製品設計 | モノマテリアル¹

Product design & Mono material

GREEN UNIFORMはリサイクルを見据えた単一素材設計

衣料品をリサイクルする上で障壁となっているのは、異素材が混ざった生地や様々な原料のプラスチック、メタルパーツ等を取り除かなければリサイクルができないということ。GREEN UNIFORMは生地だけではなく、付属品まで全てポリエステル²の単一素材(=モノマテリアル)で構成され、設計段階からリサイクルを見据えたデザインをご提案します。



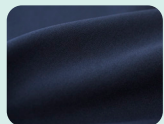
スナップボタン



ファスナー



芯地



生地



パイピング



単一素材(=モノマテリアル)とは

一般的に衣類はさまざまな素材を組み合わせて作られますが、単一素材(=モノマテリアル)とは1種類の素材や原料からできているものをいいます。

ケミカルリサイクルは、使用済みの素材を原料にまで戻して再利用する技術です。そのため、リサイクルして再利用するには、素材別に製品を分解する必要がありますが、複数素材の製品は素材別に仕分けすることが難しく、リサイクルの工程まで持っていくことが容易ではありません。また、CO₂も大量に排出され、環境への負担も懸念されます。このような課題に対して、原料が単一のモノマテリアルは、分別の必要がなくなるため、リサイクルの容易さや環境への配慮の面から注目されています。

日本における繊維製品の資源循環の現状

年間約56万トンの衣類が廃棄され、リサイクル率は僅か3割。

異素材で構成される「混紡品」がリサイクルの障壁に。

2024年時点では衣類の国内新規供給量は計82万トン。その約7割に相当する計56万トンが、事業所及び家庭から手放され、未利用のまま処理されていると推計されています³。衣料品は混紡品が多く、現状のリサイクル技術では対応が困難なものも。加えてファスナーやボタンなどの副資材も含めると、まるごとリサイクル可能な衣料品は限定的です。

※出典 環境省「令和6年度循環型ファッションの推進方策に関する調査業務」報告書概要版(マテリアルフロー)
(https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/goodpractice/materialflow_reiwa6.pdf)

リサイクル繊維の拡大を推し進めるヨーロッパ

EU域内で流通する繊維製品への、リサイクル繊維活用を掲げる
「持続可能な循環型繊維戦略」を公表。

2022年3月に、欧州委員会は「持続可能な循環型繊維戦略」を公表。その中では、2030年までにEU域内で販売される繊維製品を、耐久性がありリサイクル可能で、かつリサイクル済み繊維を大幅に使用する等、社会や環境に配慮したものにする等の目標が掲げられており、EU市場で製品を展開する国内の企業においても、今後より具体的な取り組みが求められます。

参考資料 環境省ホームページ「SUSTAINABLE FASHION | 国際的な動向」
(https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/int_trends/)

回収とリサイクルの仕組み

Collection & Recycling

株式会社JEPLANとの協業による “何度も生まれ変わる循環システム”の構築

リサイクルを見据えた単一素材の衣類を回収し、ケミカルリサイクルによって半永久的に資源を循環させる技術を持つ、(株)JEPLANとの協業により、使い終わったユニフォームを回収して何度でも生まれ変わらせます。

石油由来のポリエステルと比較してCO₂の排出量を49%削減^{※1}し、資源の循環化により廃棄物も無くす取り組みをご提案します。

※1 JEPLAN HP: <https://www.jeplan.co.jp/sustainability/#apparel>

あなたの服を、地球の福に。「BRING™」

BRING™は様々なブランドや小売店等と協力して、消費者の使用済みの服や繊維製品を回収し、地球の資源に循環させるサービスを運営しています。また、多岐にわたるパートナーと連携することで、可能な限り行き先の見えるリユース、何になるかが分かるリサイクルを行っています。みんなの思い出が詰まった服や繊維製品を、消費者が納得できる方法で循環させる。それがBRING™の目指すサーキュラーエコノミーです。

「BRING™」を提供する(株)JEPLANとは

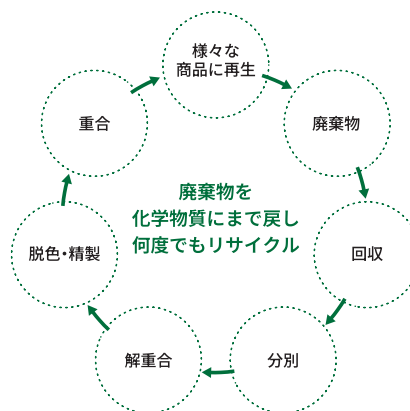
2007年に設立し、主な事業はPETケミカルリサイクル技術関連事業（対象：PETボトル・ポリエステル）など。JEPLANグループは「あらゆるものを循環させる」をミッションに掲げ、サーキュラーエコノミーの実現を目指しています。

株式会社JEPLAN: <https://www.jeplan.co.jp>

サーキュラーエコノミーのポイントとなる「ケミカルリサイクル」とは

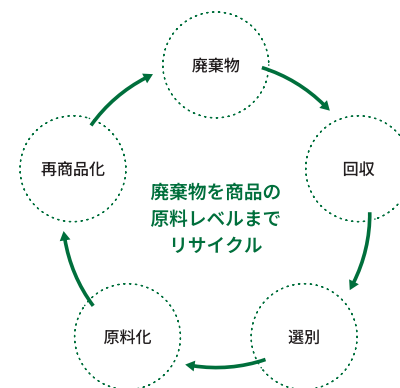
ケミカルリサイクルとは、ある物質を化学的に分解し、元の化学成分に戻して再利用するリサイクル技術のことです。

近年は、世界中でプラスチックを適切にリサイクルし、資源として循環させる「サーキュラーエコノミー」への移行が強く求められています。そのため、マテリアルリサイクルで機械的に処理するだけでは対応できない種類のプラスチックをリサイクルできるケミカルリサイクルの実用化に期待が高まっています。



ケミカルリサイクル

- 質の高いリサイクル（不純物除去）
- 繰り返しのリサイクルが可能



マテリアルリサイクル

- 一般的なリサイクル
- 振り替えしのリサイクルは不可

GREEN UNIFORM 製品例紹介

Product examples

各業界や企業に合わせたオリジナルデザインでユニフォームを制作。
医療業界／製造業界／飲食業界を想定した製品例をご紹介します。

機能性と“毎日着たい”デザイン性を両立

当社ネットワークを活かして、ユニフォームに特化したプロのデザイナーを起用。動きやすさや使いやすさ等の機能性と、細部にこだわりを詰めた着たくなるデザインをご提案します。



工業洗濯によって繰り返し使用され、漂白剤による消毒作業が頻繁に発生する医療現場。e.dye®の生地を使用したスクラブは色落ちせず衛生的にご使用いただけます。

製品品番 GU25-OR001 / 002

製品名 スクラブ / スクラブパンツ

生地品番 DPTJ03-1SD

生地名 トリコット

機能 制電 / ストレッチ



日光の下での屋外作業や、汗の噴き出る真夏の暑さにおいてタフさと快適性、安全性が求められるワーキングユニフォーム。e.dye®の生地を使用することで日光や汗、洗濯でも色落ちせず長くご使用いただけます。

製品品番 GU25-BY001 / 002

製品名 つなぎ

生地品番 DPML19-1SD

生地名 ストレッチデニム

機能 ストレッチ



飲食店ではダスターの消毒に漂白剤を使用することも多く、生地の色が白抜けして目立ってしまうことも。e.dye®の生地を使用することで色落ちせず長くご使用いただけます。

製品品番 GU25-OR009 / 010 / 011

製品名 コックコート / パンツ / エプロン

生地品番 DPML19-1SD

生地名 ストレッチデニム

機能 ストレッチ

環境負荷削減量の可視化

Amount of environmental impact reduction

環境負荷削減量をQRコードで可視化。 ユニフォームのタグから削減量がわかる仕組みに。

ユニフォームのタグに付けたQRコードを読み取ると、製品1着あたりに換算した水・化学薬品の使用やCO₂排出の削減量を画面に表示。ユニフォームを着用する従業員一人一人が環境への貢献を実感できる仕組みを採用しました※。

※ 数値はe.dye®の生地3,000mあたりの製造工程における削減量を、製品に使用する生地サイズあたりに換算しています。



タグのQRコードをスキャンすると
環境削減量がわかります



1着あたりの環境負荷削減量

水	9.9ℓ 削減
化学薬品	164g 削減
CO ₂ 排出量	496g 削減



QRコードをチェック

第三者機関により環境負荷削減量を算出し、 改善値の見える化で企業価値を向上。

上記の仕組みを活用することで、企業様で導入された着数によって、水・化学薬品、CO₂の削減量の公表が可能です。例えば、左記のポロシャツを1,000着導入頂いた場合、水を約1万リットル、CO₂排出量を500kg削減したことになります。

また、使用済みのユニフォームを回収することで廃棄物の削減量も提示します。

※各認証機関や第三者機関と連携し、GREEN UNIFORMを導入された企業様のサステナビリティへの貢献度をさまざまな形で表現します。

最終的にはLCA(ライフサイクルアセスメント)を算出し、具体的な数値をご提出することを目指しています。

 **EPD**®
ENVIRONMENTAL PRODUCT DECLARATION

環境負荷を定量化する指標“LCA”とは

“LCA”とは“Life Cycle Assessment(ライフサイクルアセスメント)”の略称で企業の環境負荷を定量化し可視化する手法です。ライフサイクルとは、原料の調達から製造、流通、使用、廃棄、リサイクルに至る製品の一生のことです。ライフサイクルアセスメント(LCA)の手法は、ライフサイクル全体における各段階の資源や、エネルギーの投入量、排出物の量などを定量的に把握できます。そして環境への影響を評価して改善に向けた取り組みを促すことが目的です。

出典 環境省「再生可能エネルギー及び水素エネルギー等の温室効果ガス削減効果に関するLCAガイドライン」
(<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/lca/index.html>)

企業におけるサステナビリティ開示の最新動向

サステナビリティ開示とは、企業が環境・社会・ガバナンス(ESG)に関する取り組みや成果をステークホルダーに開示することで、近年、欧州を中心にその動きが加速しています。日本でも2026年度から東京証券取引所のプライム市場に上場している時価総額3兆円以上の約70社は、有価証券報告書におけるサステナビリティ情報開示の記載が義務化されることが決まり、時価総額が3兆円以下の企業にも続々と開示の波が訪れる見通しです。

出典 金融庁「サステナビリティ開示基準の適用及び保証制度の導入に向けたロードマップ」
(https://www.fsa.go.jp/singi/singi_kinyu/tosin/20250717/02.pdf)

GREEN UNIFORM プロジェクトメンバーコメント¹

Project members comment



株式会社三栄コーポレーション
服飾雑貨事業部 第3部
チーフマネージャー
山田 敦

当社は2019年に開始したOUR EARTH PROJECTを通じてサステナブルな活動をおこなう中で、消費者や企業が抱える様々な課題に直面しその活動で得た経験から、今回のGREENUNIFORMの開発に繋がりました。このプログラムは、パートナー企業の皆さまとのご協力があって成り立っており、かつ我々のここまで得た知見や経験、ネットワークを結集させた一つの形でもあります。そしてこのGREENUNIFORMは、ユニフォーム業界の抱える課題を解決すると同時に、導入企業様のサステナビリティに対するお取組みを支援いたします。最終的に、世の中の多くの企業がGREEN UNIFORMを採用し、社会全体で一般化・定着し地球環境の保全に寄与する世の中になるように、尽力して参ります。



株式会社JEPLAN
会長
岩元 美智彦

株式会社JEPLANの「BRING Material™」は、工場から発生する繊維くずやBRING™の活動によって回収した衣類や企業ユニフォームなどを原料(対象:ポリエステル100%)に使用し、独自のケミカルリサイクル技術を用いて再生した繊維由来100%の再生ポリエステル樹脂です。今回の原着素材のe.dye®との掛け合わせは、更なる環境負荷低減に貢献できるスキームであり、“ケミカルリサイクルによる繊維由来原材料”と“無水染色技術”の掛け合わせは、業界でも例のない新しいチャレンジであると感じております。



GENERATION TIME株式会社
代表取締役エシカルディレクター
アドバイザー
坂口 真生

ファッション業界では長年、「水平リサイクル」の必要性が語られてきましたが、素材の混在や回収スキームの不在により、実装は極めて限定的でした。特に企業ユニフォームは、役目を終えた後の行き先が可視化されにくく、結果として大量の廃棄を前提とした構造に置かれてきた分野でもあります。GREEN UNIFORMは、モノマテリアル設計、ケミカルリサイクル、無水染色、回収までを一気通貫で設計することで、この停滞に明確なブレイクスルーを提示していると感じます。環境配慮を「理念」ではなく「業務オペレーション」に組み込む点こそが、画期的かつ本質的な価値です。ユニフォームを選ぶという日常的な意思決定が、資源循環の担い手になる。GREEN UNIFORMは、企業が無理なく、しかし確実にサステナビリティを前進させるための、実装力ある選択肢になるのではないのでしょうか。



e.dye Ltd.
総経理
楊 昭福

当社は無水染色(原着)技術の糸、生地を製造するメーカーです。持続可能な社会の実現に向け、製造業としてできる限り環境に配慮したもののづくりに努めており、製造の各工程はbluesignの認証を取得しております。その結果、主要販売先となるヨーロッパにおける様々な環境規制に対応し、高い評価を得ております。三栄コーポレーションとは同社が推進するOUR EARTH PROJECTの理念に共感し2021年より日本マーケットにおける独占販売パートナー契約を締結しております。この度のGREEN UNIFORMプロジェクトにおきましては、ハードな環境で活用される企業向けユニフォームでe.dye®の機能特性である色落ちに強いタフな側面が力を発揮すると共に、環境負荷削減量を可視化する仕組みも採用企業側のESG対策に寄与できると考えております。今後、日本の企業ユニフォーム業界の課題解決に向けて三栄コーポレーションとより強固な関係を築き尽力して参ります。

取材／ご撮影について

Interview & Shoot

取材可能な担当者

GREEN UNIFORM担当者をはじめ、協業する各社の担当者、また第三者目線での専門家へのご取材も可能です。



服飾雑貨事業部 第3部
チーフマネージャー

山田 敦

【お話できること】

- OUR EARTH PROJECTについて
- サステナブル全般について



服飾雑貨事業部 第3部
課長

相澤 望巳

【お話できること】

- GREEN UNIFORMについて
- ユニフォーム生産について



株式会社JEPLAN
BRING Business, BRING Sales Expert

日比 伸一郎

【お話できること】

- ケミカルリサイクルについて
- BRING Material™ について



e.dye Ltd.
総経理

楊 昭福

【お話できること】

- e.dye®について
- 環境に配慮した製造方法について

※海外企業のため書面もしくはオンライン会議等での対応となります。



GENERATION TIME株式会社
代表取締役エシカルディレクター

坂口 真生

【お話できること】

- サステナビリティの社会動向について
- アパレル業界の課題について

製品や素材のご撮影

GREEN UNIFORMの製品サンプル、およびe.dye®やBRING Material™等、素材の実物や原材料のご撮影をご希望される場合は、当社の本社オフィスにてご対応が可能です。



ACCESS

株式会社三栄コーポレーション



【住所】

〒111-8682 東京都台東区寿4丁目1番2号三栄寿ビル

【ご対応可能時間】

09:00～17:30 土日祝日を除く